



かべ新聞 **絆** (きずな) <令和6年2月増刊号>  
 地域住民同士の「つどう」「まなぶ」「むすぶ」を支援し、  
 人づくりと地域づくりに貢献します！

打田地区公民館  
 令和6年2月15日  
 文責:センター長 田村 幸美  
 電話 77-3140

## ◆「わがまちの宝 紀伊国分寺」講演会を開催しました！

(1/27・土)

公民館への来訪のきっかけづくりのため、地域の歴史遺産「紀伊国分寺」をテーマに文化財保護審議会委員の村田弘氏にご講演いただき、59名と多数の方に参加いただきました。

村田氏からは、「紀伊国分寺創建とその背景」について詳しく説明があり、参加者はメモを取るなどして熱心に聴き入っていました。参加者からは「国分寺が現在も保存されているのは地域みんなが大切に思っているからだ」という話がありました。「わがまちの宝」である紀伊国分寺をはじめとする、地域に遺る文化財をこれからも大切に守り伝えていきたいものです。



▲村田弘氏講演の様子

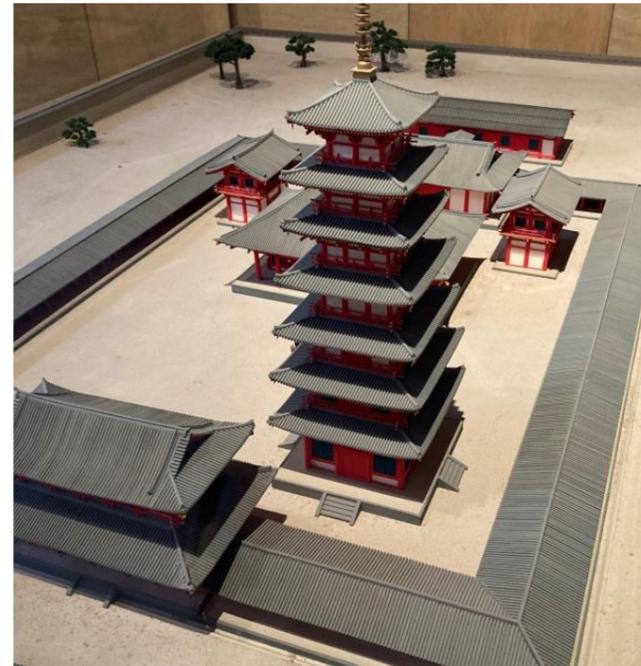
時代の流れとともに地域社会は大きく変化し、地域の文化財や伝統を守り伝えることが少しずつ難しくなっています。公民館では、地域の課題のひとつとして捉え、皆さんとともに課題に取り組むきっかけとなるよう、身近な文化財や地域の歴史に関する講座などを、今後も企画していきます。広報紙などでお知らせしますので、どうぞご期待ください。



▲講演会の様子

## 紀伊国分寺

741年(天平13年)、聖武天皇は飢餓や疫病などの流行から国家を守り仏教の力で平和な世とするため、各国にひとつ国分寺を建立するよう命令を下します。紀伊国には紀の川市東国分に下記の復元模型のような建物が建てられました。皆さんもよくご存じの奈良県の東大寺は、この国分寺の総本山にあたります。国分寺の建設は、瓦の制作、多数の木材が必要で、多くの人員が必要だったことでしょう。国が総力を挙げ最新技術を用い取り組んだビッグプロジェクトでした。講演会の中でお話がありましたが、国道沿いに建ったホテルと比べると、紀伊国分寺に建てられた七重の塔はそれよりももっと高く約60メートルほどの高さがあったそうです。今から約1280



▲紀伊国分寺復元模型

年前、そのような高層の建物があったとは、当時の日本建築の技術の高さに驚かされます。残念ながら、七重の塔は落雷による火災で焼失しますが、当時の礎石が遺っておりその歴史を今に伝えています。



▲塔跡の礎石

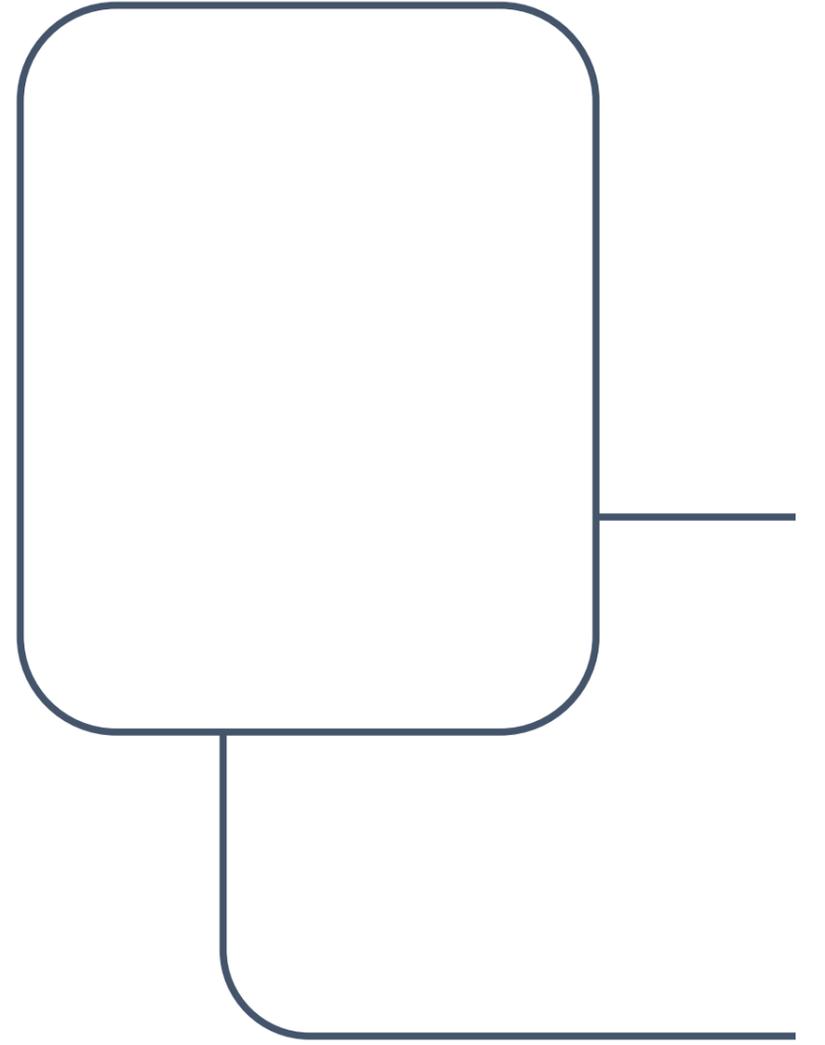
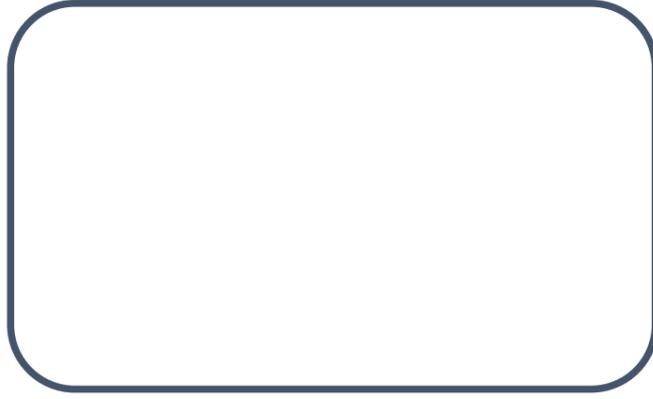


### 関係施設のご案内

現在、紀伊国分寺跡は歴史公園として整備されています。当時の姿に思いを馳せながら散歩などしてみたいかがでしょう。公園に隣接して、歴史民俗資料館(入館無料)もあります。紀伊国分寺の歴史をはじめ、紀の川市の歴史や文化財について学べる施設です。

詳しくは、生涯学習課(電話79-3907 平日のみ)または歴史民俗資料館(77-0090 月・火・祝日の翌日休館)までお尋ねください。

◀国指定史跡紀伊国分寺跡



残念ながら七重の塔は落雷による火災で焼失しますが、現在もその礎石が遺されています

残念ながら、現在は。

公民館への来訪のきっかけづくりのため、地域の歴史遺産紀伊国分寺をテーマに文化財保護審議会委員の村田弘氏にご講演いただきました。59名と多数の参加がありました。

村田氏からは、「紀伊国分寺創建とその背景」について詳しく説明があり、参加者はメモを取るなどして熱心に聞いていました。

参加者からは、国分寺が現在も保存されているのは地域みんなが大切に思っているからだという話がありました。紀伊国分寺を「わがまちの宝」として、また、地域に遺る文化財をこれからも大切に守り伝えていきたいものです。

当時の歴史に思いを馳せながら散歩などしてみてもいいかもしれません。公園に隣接して、





資料館があります。紀伊国分寺の歴史はじめ紀の川市の文化財や歴史を学べる施設です。▪詳しくは、生涯学習課（電話79-3907 平日のみ）または歴史民俗資料館（77-0090月火休、祝日）



ヨの翌日休み) までお尋ねください。